超音波内視鏡 取り扱い上の注意点（点検時・使用時）

本資料では超音波内視鏡の点検時・使用時においてポイントとなる箇所をお示ししています。手順の詳細は各製品の取扱説明書をご参照ください。

使用前の点検時

- ✓ 送気送水ボタンに破損がないかを確認する
- ✓ 送気・送水ノズル、バルーン用注水口から **気泡と水が 10 秒間出続ける**ことを確認する

チャンネルが詰まった時

- ✓ 気泡・水が出てこない場合は、患者体液が送気、送水、バルーン送水チャンネルに詰まっているおそれがあるため、**オリンパスに連絡**のうえ、修理に出す

使用時

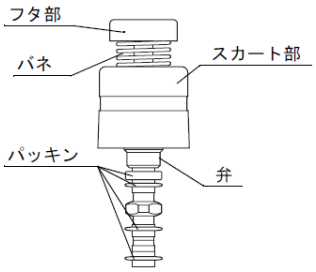
- ✓ 送気送水ボタンの取り外しを行う場合は、**内視鏡先端を患者から抜去してから**行う

使用直後の点検時

- ✓ **内視鏡の抜去後すぐに**、送気送水ボタンを用いて送気・送水ノズル、バルーン用注水口から **気泡と水が 10 秒間出続ける**ことを確認する

使用前の点検時

送気送水ボタンの点検



- **送気送水ボタンの弁やパッキンに切れ、キズがないこと**を目視で確認します。
- 弁やパッキンに切れ／キズがあると、体腔内圧により、体液が送気・送水ノズルから送気チャンネルまたは送水チャンネルに流入して詰まるおそれがあります。
  弁やパッキンに切れ／キズがある場合は新しい送気送水ボタンと交換してください。

送気機能の点検

送気送水ボタンの穴を**指でふさぐ**

- 光源装置の『添付文書』や『取扱説明書』に従い、光源装置の送気圧を「強」に設定します。
- 内視鏡先端部を滅菌水の深さ約 10cm のところに沈め、送気・送水ノズルから気泡が出ないことを目視で確認します。
- 送気送水ボタンの穴を指でふさいだとき、**送気・送水ノズルから気泡が 10 秒間出続けること**を目視で確認します。
- 送気送水ボタンの穴から指を離したとき、送気・送水ノズルから気泡が出なくなることを目視で確認します。

対物レンズ面の洗浄機能の点検

送気送水ボタンの穴を指でふさいだまま **1 段押し込む**

- 送気送水ボタンの穴を指でふさいだまま 1 段押し込み、**送気・送水ノズルから内視鏡画像全体に水が 10 秒間出続けること**を確認します。
- 送気送水ボタンから指を離すと、内視鏡画像上の水の流れが止まり、ボタンがスムーズに元の位置に戻ることを目視で確認します。
- 送気送水ボタンの穴を指でふさぐと空気が出ます。この空気によって対物レンズ面の残水がおおむね除去され、内視鏡画像が鮮明に見えるようになることを確認します。

バルーン内注水機能の点検

送気送水ボタンの穴を指でふさいだまま**最後まで押し込む**

- 送気送水ボタンの小穴を指でふさいだままボタンを最後まで押し込んだとき、**先端部のバルーン用注水口より水が 10 秒間出続けること**を確認します。水が出るまでは最初は数秒かかります。

OLYMPUS

使用時

送気・送水機能に異常を感じた時は　内視鏡を抜去した**後に**ボタンを交換

- 光源装置の送気スイッチを切り、**内視鏡先端を患者から抜去した後**に、**新しい送気送水ボタンと交換**してください。
- 内視鏡先端を患者に挿入したまま送気送水ボタンを外すと患者体液が送気・送水ノズルから流入しやすくなります。
  送気送水チャンネルに流入した体液は送気送水シリンダから術者や患者に飛散し、感染を起こすおそれがあります。

使用直後の点検時

送気、送水、バルーン送水チャンネルの詰まり点検　**内視鏡を抜去した後すぐに**実施する

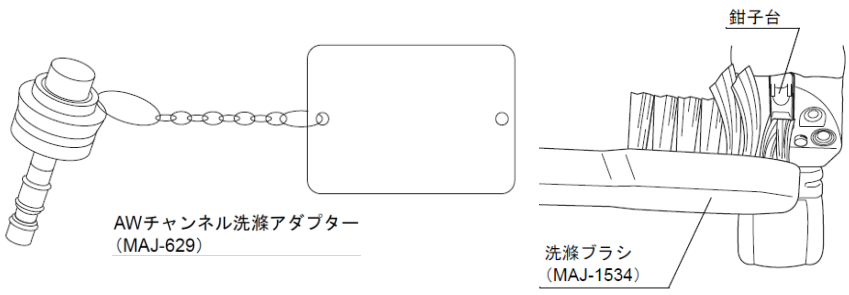
- 内視鏡画像を観察しながら、内視鏡をゆっくりと抜去します。
- 患者の口からマウスピースを取り外します。バルーン法で検査している場合はバルーンを取り外します。
- 光源装置の送気圧を「強」に設定します。
- 500cm3（500ml）の容器に清潔な水を準備し、清潔な水の中に内視鏡先端部を入れます。
- 送気送水ボタンの穴を塞ぎ、**送気・送水ノズルから気泡が 10 秒間出続けること**を目視で確認します。
- 送気送水ボタンの穴をふさいだまま 1 段押し込み、送気送水チャンネルに送水し、**内視鏡画像全体に水が 10 秒間出続けること**を確認します。
- 送気送水ボタンの穴をふさいだままボタンを最後まで押し込み、バルーン送水チャンネルに送水し、**先端部のバルーン用注水口より水が 10 秒間出続けること**を確認します。

チャンネルが詰まった時

点検時に気泡・水が出てこない場合は、患者体液が送気チャンネル、送水チャンネル、バルーン送水チャンネルに詰まっているおそれがあります。
点検にて異常が疑われる場合は内視鏡を使用せず、オリンパスにお問い合わせの上、修理に出してください。
チャンネルが詰まったまま内視鏡を使用すると感染のおそれがあります。

【補足：リプロセスに関して】

点検で異常が確認されなかった場合は、各製品の取扱説明書にしたがって確実にリプロセスを実施してください

特にご注意いただきたいポイント

- ✓ 汚れの固着を防ぐため、各症例後は直ちにベッドサイド洗浄を実施する
- ✓ ベッドサイド洗浄時には、AW チャンネル洗滌アダプター(MAJ-629)を使用する
- ✓ 先端部（鉗子台の上面・側面・裏面、溝部分など）に汚れがなくなるまで十分にブラッシングする